

December
2016

No. 23

赤レンガ通信

JET プログラム 30 周年記念式典

北海道
www.pref.hokkaido.lg.jp



30周年記念式典

11月7日、月曜日。昼を過ぎても東京の空気はひんやりしている。京王プラザホテルの金色に輝くロビーに入ると、そこにいた人たちがいくつかグループを作っていて、知っている人を探しながら周りを見回したり、ポケットに手を入れておしゃべりしたり、ハグしたり笑ったりしていた。日本人やアメリカ人、カナダ人、ジャマイカ人など、世界中からたくさんの方が集まっているようだった。若い人も年配の人も。でも皆、同じようにきらめく目をしていて、昔からの友達に再会し、新しい友達と出会う。この30年の間に繋がっていた時期がある事業を祝う。その日、私は北海道代表として、JET プログラム30周年記念式典に参加した。

大きなレセプションホールは、メディアや壁沿いに並ぶスタッフでごったがえしていた。隣の女性に声をかけたところ、彼女も都道府県を代表して一人で来たということを知った。有給休暇を使い自己負担で参加しているJETの多さに驚いたが、一人のOB以外、私が遠く北海道から来たことに驚いて、「北海道は本当に寒い？本当にワイルド？」と聞かれた。心配しないで！北海道の素晴らしさを大げさに言うのは、常にいいPRチャンスなん

です。北海道PR、完了！

設立当初からJETプログラムに関わってきた自治体国際協会（CLAIR）や関係省庁の代表の挨拶が終わり、静寂が会場を包んだ。そして正装した男性と、英国王室の好きそうな帽子に真珠、パステル色のスーツを身にまとった優雅な女性が会場に入ると、嵐のような拍手がわき起こった。皇太子同妃両殿下が挨拶のためご隣席くださったのだ。皇太子殿下は、30年を迎えたJETプログラムの功績を述べられ、教師・通訳者（翻訳者）・スポーツアドバイザー・大使として日本と世界各国の間の架け橋となるJET参加者の存在が、これまでも増して必要だと仰った。

ジャマイカとカナダの駐日大使によるスピーチもあった。ジャマイカ大使は『クール・ランニング』^{※1}流のユーモアを交えたスピーチを、カナダ大使はジャスティン・トルドー首相^{※2}のファンだと告白、会場を盛り上げた。また、母国で外交官として働いている人、日本に残り音楽家や有名人になっている人等、元参加者のその後を紹介していた。JETプログラムは日本と参加者の出身国の双方にとって有益で有り、このプログラムでの経験が未来の成功に繋がっているというメッセージを伝えた

かったのだろう。

最後に、「JET プログラムの動画コンテスト」※3の表彰式があった。JET 参加者はコンテストの詳細を何度も聞かされているので、ここで改めて言う必要もないと思うが、どうしても書いておきたいことがある。それは、受賞者や審査員の心が込もった感動的なスピーチだ。JET プログラムに参加できたことへの真の感謝、赴任地やそこで出会った人々を心から愛していることが伝わってきた。彼らの言葉やスクリーン上の映像から、日本での経験が彼らの人生にどれほど影響を与えたのか、よく分かった。

バンケットホールでの夕食会は、太鼓演奏に合わせてくまモンが勢いよくブレイクダンスするパフォーマンスで始まった。くまモンのスーツを着た人、お疲れ様！会の間は AJET 大阪支部長と、そして偶然分かったのだが同志社大学留学時ルームメイトだったオーストラリア人の友達の仲間とずっと話していた。高校や同志社大学時代の同級生、ビデオゲームのイベントで

知り合った人にも再会できた。オーストラリアの子と「本当に世間は狭いね！」と盛り上がった。

JET プログラムはたくさんの糸を束ねていると思う。糸はいろいろな色や形をしていて様々な場所から集まり、1箇所で結ばれる。その結び目から、また一本一本新しい方向へ伸びていくが、真ん中の結び目はほどけない、強い繋がりだ。JET プログラムは、私の過去の経験と未来の目標を結びつけてくれた。今後どこへ行っても、きっと JET の思い出や経験が活きると思う。北海道代表として、このイベントに参加することができ、心から感謝している。ありがとう！

ブリー・ストーリー

- ※1 クール・ランニング：ジャマイカのボブスレーチームの冬期オリンピック初出場をテーマにした映画（1994年）
- ※2 ジャスティン・トルドー首相：カナダ現首相
- ※3 JET プログラム動画コンテスト：自治体国際協会（CLAIR）が行っている JET 参加者向けコンテスト。

ブリー・ストーリーは東北道にある様似町の外国語指導助手（ALT）3年目で、ALT の仕事をしながら、ユネスコ世界ジオパークアポイ岳の翻訳・通訳や JET プログラム参加者の会・北海道支部の翻訳・通訳もしている。また、文化大使として日本とアメリカの間に架け橋となっている。

— 式の様子 —



皇太子同妃両殿下



くまモンのブレイクダンスパフォーマンス



JET プログラムの動画コンテスト受賞者



30周年のロゴ



北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約250人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えたいです！



MEET BREE STOREY...

なぜ北海道へ来たのですか。

A 日本語や日本文化を勉強してきました。京都の同志社大学で勉強したとき、面白くて、楽しくて肩肘はらずに付きあえる人はみんな北海道出身でした。だから、その温かい人たちや、涼しい天気を求めて(蒸し暑いのが大嫌いなので)北海道に住みたいと思いました。

これまで北海道の経験はどうか

A 素晴らしいです！波が打ち寄せる様似町の海岸での昆布採取から、東京ゲームショウで通訳など、いろいろな経験ができたし、たくさんの人から多くのことを学びました。同時に、私も自分のスキルや経験を色々な人と共有してきました。北海道の人たちは、日本で最高の人たちだと思います。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

A 難しいですね。今までの経験を全部思い出していると、頭の中で思考が堂々巡りしてしまいます。でも一番印象に残っている経験は、様似神社で巫女になったことです。神楽の舞を練習しながら、神主さんとさまざまなテーマで話すことができました。日本の歴史、神話、国際化、神主さんがバックパック一つで世界中を旅したこと、宗教、文化等。挙げればきりがありません。きれいな巫女装束を着て、優雅なダンスを踊っただけでなく、

日本とアメリカの文化の違いを理解したいという望みを実際に伝えることができました。ずっと前からの夢を叶えることができ、うれしかったです。

日高・様似町の好きなところは何ですか。

A 一つだけ選ばなければなりませんか？飲み会好きで親切な人たち、大きくて美しい馬、墨で書いた線のように海岸に並んでいる昆布、静かで過ごしやすい冬、明かりがなく、星いっぱい夜空。全部選びたい所ですが…まあ、一番好きなところは仕事帰りや早朝、海岸沿いを車で走っているときでしょうか。朝日や夕陽が反射する海の色が毎日違うのです。きらきらしたカリブ海のティールブルーから、紺色と茶色の渦、嵐のようなくすんだグレーまで、本当に美しいです。

他に伝えたいことはありますか。

A 答えは何でもいいんですね？今北海道に住んでいるJETプログラム参加者に対して一言、言わせてください。冬が近づき、継続するかどうかを決める時期になりました。仕事だけではなく日常生活でも自分が成長できる機会を見つけることが大事です。授業で新しいことを試してみる。陶芸や茶道にトライしてみる。アパートでシャドーボクシングする。三味線を習う。何でもいいです。日本や北海道の文化に関係ないことでも、少しでも興味がわくことはやってみた方がいいと思います。新しいスキルが学べ、視界が広がります。

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Emily Schuster)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303